



○ SUMMER VACATION

2年生にとってこの夏は保育実習・PBLがあり、就職活動もあるでしょうからまとまった夏休みがとりにくいと思われませんが、うまく時間を工夫して Vacation を楽しむことができるといいですね。

さて全くのつれづれですが、私の夏休みの思い出・失敗談などを紹介します。皆さんの命が危険にさらされないよう、参考にしてみてください。恥ずかしいですが既に時効になっていると思われるので紹介してみます。

私の住んでいるところは柳井市の大島です。海が目の前です。景色はいいですが田んぼの水を確保するには苦勞します。遠くから水を引く溝(井手)の管理を行わなければなりません。学生・生徒時代には小・中・高校とプールがなく、卒業してからできましたので、二十歳過ぎまでほとんど淡水で泳いだ経験がありません。もっぱら海で泳いでいましたが、危険はいっぱいです。

大島瀬戸は有数の急流です。タイなどの魚はよく釣れますが、沖ではない浜辺で泳いでいても流されることがありました。一生懸命両手両足で漕いでも後ろに進むことがよくありました。

また、満潮ならばまだしも、干潮になるとケガの危険が増します。刺す魚の襲来、牡蠣の殻での切創、昔は割れたガラス瓶もたくさんありました。

このようなことから海の危険は結構知っているつもりです。さて、失敗談です。

23歳のころ、伊豆諸島の一つ新島に仲間と遊びに行きました。仕事の都合上9月に入ったころにやっと休みが取れたという状況だったと思います。天候は曇り空でしたが、せっかく来たのだから泳ぎたいとみんなが思いました。最適な季節はすでに去り、周りに観光客はいません。その時の海を見て私はいやな予感がしたので入るのはやめました。友だちの一人は喜んで泳ぎ始めました。私は浜辺に座って休憩していましたが、泳いでいる友だちが沖から手を振っています。「楽しんでるね!」と思っていたのですが、しばらくして近くにいたサーファーがその友だちを海から引きずり上げています。実は彼はおぼれていて「助けてくれ!」と手を振っていたのでした。あとで聞くと、引き波によって沖に流され帰れなくなったのだそうです。そこにサーファーがいなければ一巻の終わりでした。結果的に彼は助かり、今だからこそこうして紹介できますが、危機一髪のことでした。今でも思い出すと冷や汗が出ます。(友だちのM君、勝手に紹介してごめんなさい。)

二つ目です。園児だったころの話です。今でも鮮明に覚えています。園が休みの日、同い年の友だちと手をつないで道路(国道ではなく幅のせまい旧道です。)を歩いていました。交差点に差し掛かったところ、車が左折してこちらに向かってきました。二人は立ち止まり、やり過ぎそうとなりました。車のスピードは歩くくらいのゆるさでしたが、かなり接近してきました。二人はよけようとしていっしょに後ろへ一歩下がりました。次の瞬間、目に入った景色は真っ青な空でした。図のような体勢で溝に二人とも落ちたのです。溝にふたはありませんでした。よくもまあ石で後頭部を打たなかったなあと思います。特にけがをした記憶はありません。幸運だったのは海に近い溝で、底に砂が少々あったことです。

二つの教訓

☆油断大敵!危険察知能力は鍛えておく必要がある

☆危険な場所は大人が見つけておくべき

